

令和3年度佐賀環境フォーラム実績報告

1 実施体制

佐賀大学、佐賀市、市民スタッフで構成する実行委員会形式

2 受講等

(1) 受講要件 高校生以上

(2) 受講料 (年間：※スポット受講は講義のみ)

- ◇ 一般 : 5,000円
- ◇ 学生 : 1,500円 ※佐賀大学生は無料
- ◇ 法人 : 1口 5,000円 ※1口で1人枠とし、誰が受講しても可
- ◇ スポット受講者 : 1講義につき 500円
- ◇ スポット受講者(学生) : 1講義につき 200円

(3) 参加者数 ※[参考：昨年度参加者数]

- ◇ 一般 : 9名[-名] ◇ 佐大生 : 49名[46名]
- ◇ 法人 : 0社[-社] ◇ スポット : 51名[-名]

3 事業概要

(1) 講義

期間 : 令和3年5月20日(木)から令和3年9月4日(土)まで(全12回)

講師 : 学内講師5人、学外講師7人

方法 : 対面と大学システムによるオンライン講義(市民は全てオンライン講義)

回	講義内容	所属等	講師名	参加者数				
				一般	佐大生	法人	スポット	合計
1	環境問題概論、フォーラム概要説明	佐賀大学 総合分析実験センター 准教授 佐賀環境フォーラム実行委員会 事業部長 えこいく、ちゃりさがさいせい、フードロス、有明海プラごみ、温暖化防止 ネット、さが環境推進センター、元気・勇気・活気の会	兒玉 宏樹 氏	4	48	0	1	53
2	SDGsの実装 -ターゲットのローカライズ-	佐賀大学 全学教育機構 教授	五十嵐 勉 氏	5	45	0	2	52
3	佐賀からアフリカへ光を届けます	一般社団法人GOOD ON ROOFS 専務理事	川口 信弘 氏	6	47	0	5	58
4	環境を切り口とした持続可能な地域づくりの取組	環境省 九州地方環境事務所 次長	泉 勇気 氏	5	44	0	10	59
5	二酸化炭素の性質と化学反応	佐賀大学大学院 工学研究科 化学部門 准教授	梅木 辰也 氏	5	40	0	4	49
6	自然保護NGOが進める淡水の活動	WWFジャパン 自然保護室 淡水グループ長	並木 崇 氏	6	45	0	3	54
7	沿岸域の環境保全	佐賀大学 農学部 生物資源科学科 食資源環境科学コース 准教授	郡山 益実 氏	6	43	0	5	54
8	SDGsって??一人ひとりの行動が未来につながる!!	リコージャパン株式会社 地方自治体センター 自治体戦略室	米谷 正児 氏	5	44	0	7	56
9	私たちが望む未来 =The Future We Want=	一般社団法人 日本キリバス協会 代表理事	ケンタロ・オノ 氏	5	41	0	4	50
10	SDGsの本質を知ろう!!	なないろネットワーク熊本 一般財団法人くまもとSDGs推進財団 評議員	神田 みゆき 氏	6	45	0	3	54
11	地球温暖化のウソ?ホント? 「温暖化は本当に起きているの??」	国立環境研究所 地球システム領域 副領域長	江守 正多 氏	6	44	0	7	57
12	意見交換会	佐賀大学 総合分析実験センター 准教授 佐賀環境フォーラム実行委員会 事業部長	兒玉 宏樹 氏	1	46	0	0	47
計				60	532	0	51	643

(2) 体験講座

1) 環境学習会

【時期】令和3年6月27日(日)

【場所】656広場、松原川、裏十間川

【目的】佐賀市内における水利用の歴史や文化など、自然と人との共生について学ぶとともに、保全や利活用の現状を知り、地域資源を活かした豊かな街中環境について考えることを目的としている。

【内容】さがクリークネットの代表川崎氏から水環境、クリークの利活用、まちづくりについての講義を受講した後、実際に街中の水路(松原川及び裏十間川)に入り、今後の保全や利活用の課題を探究した。



2) ごみ探検隊

【時期】令和3年6月19日(土)

【場所】東与賀海岸

【目的】現在、世界的に問題となっている海洋プラスチックごみが環境に与える影響を学ぶとともに、その現状を自分ごととして理解し、さまざまなレベルで可能な対策を考えることを目的としている。

【内容】国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録されている有明海の東よか干潟で清掃活動を行い、採取したごみの種類、数量、発生源をデータシートに記録し、自分達の生活から出てくる漂着ごみについて考察を行った。



参加者数 () 内は昨年度の参加者数

内 容	一般	学生	スタッフ	計
環境学習会	4 (一)	45 (33)	5 (3)	54 (36)
ごみ探検隊	5 (一)	47 (36)	4 (1)	56 (37)
計	9 (一)	92 (69)	9 (4)	110 (73)

(3) 現地見学会

【時期】令和3年6月19日(土)

【内容】東よか干潟の魅力を発信し、観光や交流、学習の拠点となるため、一昨年10月に新しく開館した東よか干潟ビジターセンター「ひがさす」において、佐賀市の環境や環境施策の説明を聞いたのち、施設及び干潟の見学を行った。

参加者数 () 内は昨年度の参加者数

	一般	学生	スタッフ	計
参加者数	5(一)	47(36)	4(1)	56(37)

(4) ワークショップ (WS)

1) グループWS

①環境教育班 (7名)

②チャリツーリズム班 (6名)

③フードロス班 (6名)

④有明海プラごみ班 (7名)

◇研究目的と研究成果

①環境教育班

【目的】子どもたちに身近な環境について知ってもらうため、保育園や幼稚園を訪問し、紙芝居やゲームを通して環境教育を実施する。

【成果】毎年行っている鈴虫の音楽会は動画を作成し、まなびいフェスタでは環境紙芝居やごみ分別ゲームを行った。また南川副小学校SDGsイベント（SDGsクイズ、貿易ゲーム）、蓮池公園福拾い（ごみ拾い）などを行い、子どもたちの環境に対する知識を深めるとともに、団体として地域の環境保全活動を行った。

②チャリツーリズム班

【目的】移動手段としての自転車の利用を促進するための情報収集や調査活動を行い、利用促進や啓蒙のための情報提供を行う。

【成果】クリークツアーガイドに関して自転車を使った街中散策を提案するために、事前にクリーク周辺の散策や実態調査を行い、自転車とカヌーを融合させた取り組みとして、カヌーレース、魚釣り、フィッシュウォッチング、昆虫採集、花見などを体験できるプランを考案した。

③フードロス班

【目的】フードロスの現状を学習するとともに、生産・小売・消費など様々な側面からフードロスの原因や対策について研究する。

【成果】各団体のフードロスに対する取り組みの調査や同世代へのアンケート調査を実施し、課題を把握した上で、フードバンクさがとコープさが生協への訪問取材や、大学のフードパントリー活動を体験することで、課題を解決する方法として「学生サポーター制度」を考案した。

④有明海プラごみ班

【目的】既往の海岸プラごみに関する報告例を調べ、具体的な調査方法等を確立し、東与賀海岸全域を網羅した踏査調査を行い、漂着したプラごみの発生源について検討する。

【成果】ごみ探検隊の一斉調査で得られた漂着ごみの情報を解析・整理し、漂着ごみの内訳について考察した。有明海SAGANキッズ2021へ参加し、子どもたちに海洋プラスチックやSDGsについての説明を行った。また、東与賀海岸独自の漂着ごみのデータシートを作成した。

2) インターンシップ型WS

【派遣の法人】

- ① 温暖化防止ネット（6名）
- ② さが環境推進センター（6名）
- ③ 元気・勇気・活気の会「三気の会」（7名）

◇主な活動内容と活動成果

①温暖化防止ネット

【内容】県内の地球温暖化防止活動の拠点として、様々な主体と連携しながら「普及啓発」「活動支援」「相談対応」「調査・分析」等の活動に取り組んでいる。

【成果】環境問題に対して子どもたちに関心を持ってもらうため、佐賀県主催のエコイベントでは海洋ごみに関するパネル展示やエコマークの紹介、ごみ分別チャレンジを企画し出展した。また、エコカー試乗会へ運営スタッフとして参加するなど様々な環境活動に参加した。

②さが環境推進センター

【内容】環境問題等に取り組んでいる団体、事業所と連携をしながら、まちづくり地域活性化を推進していくことを目的に活動している。また、ごみ減量、資源の有効利用に関する情報の発信、リユース品の販売、エコマーケットや体験イベント等を開催している。

【成果】子どもたちにごみ分別を楽しく勉強してもらうために、紙コップクレーンの作り方のYouTube動画を制作した。エコプラザのイベントではエコマーケットやぼかし制作への参加、子どもたちにごみ分別を学んでもらうためのエコフィッシングを行った。また、工場見学に来る小学生にプラスチックごみ問題について説明し、その際作成したポスターをエコプラザ再生ゾーンに展示し、来場者への啓発につなげた。

③元気・勇気・活気の会「三気の会」

【内容】自然環境が維持、保全される社会を実現するため、人と環境に優しい無農薬・無化学肥料で安全、安心の農作物作りを目指す有機農業の普及を図っている。有機農業の田植えから収穫までを体験することができる「ほんなもんぼ体験学校」では、子どもと保護者、大学生といった幅広い年齢層の方々が参加している。

【成果】ほんなもんぼ体験学校に参加し、野菜や米を自分達で育て、農業の在り方や大変さを学んだ。活動として、田植え・稲刈り・脱穀、枝豆の種まきや収穫、さつまいもの植え付けや管理を行った。またごみくいでは、巨勢公園のクリークの底にたまった泥土を揚げて肥料として活用するとともに川の外来種駆除も行った。

(5) 研究成果発表会（ワークショップ）

令和4年1月23日（日）にオンラインにて開催。

なお、例年研究成果発表会の終了後に実施していた終講式（一般参加者への修了証の交付）は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止。

(6) 河川清掃

大学周辺の自治会と協力し、大学内及びその周辺の河川清掃を行った。

①春の河川清掃

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止。

②秋の河川清掃

【時期】令和3年11月17日（水）

【場所】佐賀大学、佐賀大前自治会内河川

【参加者数】50名

(7) 佐賀環境フォーラム20周年事業

20周年事業として、公式ホームページ上に、これまでの歩みを掲載。

(<https://saga-kankyo.jp/>)